

まちづくり懇談会 中野方

日時：平成 30 年 10 月 9 日（火）午後 7 時～8 時半

場所：中野方コミュニティセンター

4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■企画部長 今日では自治区主催ということで、せっかくの機会なので、中野方の地域自治区がどんな取り組みをしているか、私から端折って説明する。本来なら地域自治区から細かく説明して頂けるのだが、時間の都合で私から説明する。補足があれば会長から後ほどお願いする。

恵那市では平成 28 年から 37 年の 10 カ年の第 2 次総合計画に基づいて事業を展開している。本年度 3 年目だ。これに合わせて各 13 地域で地域計画を平成 27 年度に策定して頂き、計画に基づいて取り組みをして頂いている。

キャッチフレーズ「里山の恵みを活かし、みんなが生き生きと安心して暮らせるまち」を 10 年先の中野方の姿ということでイメージして、計画の柱が 3 点ある。1、里山の恵みを活かす。2、みんなが生き生きする。3、安心して暮らせるまちにする。

市からは、事業を実施して頂くに当たり補助金を交付している。今年度中野方では 2 事業で 77 万円交付している。その他に 13 地区ほぼ均等割で特に用途を制限しない交付金が 130 万円ほどある。補助金と交付金、合わせて 207 万円あり、これにより事業を実施して頂いている。

主なものを紹介する。

中野方川の整備。計画の柱 1。実施団体は地域協議会、川遊び実行委員会、青少年育成町民会議。内容は子どもの遊べる川整備。本年度は 8 月 19 日にマスつかみ大会を実施。こういうことを通じて、川で遊ぶ機会が少ない子どもたちのために自然に親しむイベントをしている。

坂折棚田の保全・活用。計画の柱 1。実施団体は N P O 坂折棚田保存会。事業内容は都市農村交流事業、棚田景観保全事業。

水源の森づくり。計画の柱 2。実施団体は水源の森実行委員会。実施内容は企業との協働により森林づくり。コココーラの森と言った方が理解して頂きやすいと思う。

移住定住対策 1。計画の柱 2。実施団体はおんさいなかのほう。事業内容は空き家対策。写真は移住定住交流会、勉強会。こういうことを通じて空き家の案内をしている。

移住定住対策 2。計画の柱 2。実施団体は地域協議会。教員住宅の活用を検討。市の持

ち物で中野方にはアパートがないので、代替として活用したいということで、市へ改修を条件として施設の譲渡を要望してみえる。市としては出来る限り要望に沿えるよう現在検討している。

農泊の推進。計画の柱2。実施団体は農泊推進協議会。内容は農泊の推進で、9月1日から中野方で3軒営業開始された。

小学生バイオリン演奏体験。計画の柱2。地域協議会、小学校、青少年育成町民会議が実施している。中野方町のホタルコンサートでバイオリンの演奏会を実施している。ホタルコンサートで恵那北中学校の生徒がボランティアで参加している。

小学生森林整備体験。計画の柱2。実施団体は小学校、木の駅プロジェクト。水源の森実行委員会。内容は森の健康診断。写真は小学生が間伐から地域通貨の森券交換までを体験したもの。

望郷の森整備。計画の柱2。実施団体は望郷の森管理組合。内容は望郷の森の管理棟の活用の中で、現在は管理棟の活用方法や管理体制づくりを検討している。

ふれあい・ささえあいポイント事業。計画の柱3。実施団体は地域協議会。ボランティアポイントは、指定対象ボランティア活動を行った場合にポイントを贈呈し、ある程度貯まったら森券と換券。この取り組みは今年3年目で、現在ボランティア登録が175名ある。

まめの木を拠点とした福祉活動。計画の柱3。実施団体はまめに暮らそまい会。内容は学童クラブ、ふれあいサロン、まめくらクラブ。

「里山の恵みを活かし、みんなが生き生きと安心して暮らせるまち」を目指して引き続き池戸会長の下、地域のまちづくりに励んで頂きたい。

■市長 中野方の状況と事業等について。

人口は右肩下がり。世帯も概ね増えているが昨年とその前の年は大体同じぐらいだ。人口の減少幅を、平成17年を100としたとき、恵那市全体が-10.9%。中野方町は1590人で-16.1%。減り幅は地域によって違う。中野方町で生まれた子どもの数は、10人を超えていた時期からするとここ4年ぐらいは若干少ない。子どもの数は後で戻ってきたり、移住してきた子を足すと、平成19年は生まれた子は10人だが7人の子が移ってきた。こういう形で子どもの数がある程度確保出来ると考えられる。ただ、27年は+3人、28年は+2人、26年は動いている人がいない。25年は1人出て行った。このあたり、地域として見て頂き、なるべく来てくださいと声掛けて頂くのも手だと思う。

こういったことを勘案すると、中野方小学校の30年度の児童の数は80人だが、1年生が6年生になる5年後、57人になる。北中学校全体で、今89人だが5年後には70人になる。色々なことを皆さんと一緒に考えないといけないと思う。

道路整備等の事業について。

県道中野方七宗線。白川線上り口から第1工区、第2工区、合わせて930m。30年度事業として2千万円程度で、一部通行止めもして工事に入っている。

七宗線に関連して市で68号線と71号線それぞれ改良、排水工事を行っている。よろしくをお願いします。

中野方59号線、ちょうど小学校の上のところの改良工事も順に行っている。30年は25mの予定で、今行っていると思う。

農地中間管理機構関連の農地整備事業。圃場整備を中野方地域で来年からスタートする。今年計画の取りまとめを行う。

市道飯地中野方線、勢井後橋の設計、その奥の飯地に向かったの改良を部分的に進めている。

川向林道の笠置山のところ、笠周計画に位置付けられており順次進めている。今年度300万円の予算でスタートしている。

笠周地域振興計画の進捗状況を報告する。観光で、笠置山整備事業、望郷の森の管理棟の修繕・活用について、今検討しており進行中。棚田のなごみの家の整備は完了。観光マップは完了。グリーンピア恵那の跡地の観光農園の整備運営事業は今協議している。ふるさと活性化協力隊員の配置は、まちづくり推進員として2名に入ってもらっている。飯地中野方線勢井後橋の整備は、一部設計しており、道路の改良も今進めている。川向林道も整備実施中。県道中野方七宗線も、県事業で、工事が進んでいる。概ね完了もしくは進行中だ。

その他いくつかトピックを用意した。先日笠置山栗園の収穫祭にお邪魔した。6,500本という日本でもトップクラスの栗園がスタートした。今年は台風で被害もあったが、引き続きどういう形が良いか、ピーアールを含めて色々な応援をさせて頂きたいと思っている。

道の駅なかのほう不動滝やさいの会は、道の駅の先駆的な取り組みで、恵那市の中でも一番早く取り組まれた内容だ。引き続きご利用、ご活用を私どもも行っていきたい。

救急分遣所。車庫も造り、車も入るようになったし、通信指令台の無線機も11月には完成する。いよいよフル稼働出来る環境が整いつつある。

笠置山の林道、グリーンピアの栗園の登り口でヒルクライムや、その奥の駐車場でジムカーナという競技も今計画されている。10月21、28日、11月25日、3月にはヒルクライムを行いたいと運営者から申し出を頂いている。地元と一体となって、地域の活性化に活用頂きたい。

魅力。中野方には5つの法人があると言われた。アグリアシストも大変活躍されている。ついこの間、岐阜新聞に載った恵那楽器という大変すばらしい会社がある。私も古くからお付き合いしている。頑張って応援していきたいと思っている。昨年郷土資料館がオープンし見せて頂いた。安江コレクションと言われたものがずいぶんあって、ここには昔から

の色々な生活のにおいや文化が残っている。中野方には良いところがたくさんあるので、こういったものを生かしながら、これからもどんどん、地域が活性化するように進めていきたい。

5. 意見交換

■司会 これからが本題だ。発言時には名前、所属を言ってほしい。

■市民1 昨年この場で町内一円の獣害メッシュの獣害防護柵の計画をしていると案内させて頂いた。町の振興会の理解も頂き町内70%以上の住民の同意を取り付け、事業申請をしたところ、認可も下り、設置事業者も決まった。今後11月ぐらいから設置に向けての地域の取り組みを、また皆様方の協力の下、進めていかないといけない。アグリアシストが中心になって農地中間管理機構の預託農地の圃場整備を、県下初の取り組みとして7カ所で進めている。地権者の同意はすべて取り付けることができ、来年から実施設計に向けて進んでいく予定だ。県単の事業だが、暗渠排水の整備事業も、本来来年からの事業計画だったが、予算の関係で今年若干工事にかかって頂けるということで、恵那市の関係部署の皆様方には大変お骨折り頂き、早い取り組みが出来ることについて、改めてお礼申し上げる。

今後の課題として、笠置山栗園の生産量が年々増えてくるし、それにつれて集荷、選果について、選果場の設置、加工施設も必要になる。不動滝やさいの会の加工施設も、今後のGAP（ギャップ）、製造工程管理の中での衛生管理も十分な施設だと言えないということを見ると、一体的にそういった設備を整えていく必要が早急にあると考える。最近では次期の中山間事業についての事業説明を受けているが、これも10年ぐらいのスパンで考えるということで、栗園については早急に考えなければならない課題なので、出来るだけ早いうちに取り組んで頂けるメニューを紹介頂きたいと思う。

当町の農業振興については、栗園、坂折棚田については、農業のシンボルとして今後の後継者が育つ農業振興に努めていきたい。さらなるご協力、ご尽力をお願いしたい。

■市長 なるべくご紹介出来るところはご紹介させて頂いてと思っております、選果・加工も含めてこれからこの地域で施設が必要になることは十分に考えられます。今、確か農協も市も含め協議をされていると思いますので、引き続き積極的に市では協議に前向きになるように進めている。

■市民2 日頃のお礼、お願いを述べたい。

市長初め行政の皆様方には私どもの事業に深いご理解でご指導、ご鞭撻ありがとうございます。心強く思っている。また、先日のみのじのみのり祭りの一環の9月22日の恵那

笠置山栗園の収穫祭には、お忙しいところ市長においで頂き、盛り上げて頂きましてありがとうございました。おかげさまで天気も回復し、盛大に出来たことを喜んでいる。

台風 21 号でかなりの被害を被った。見晴らしが良いということで風をもろに受け、倒木や収穫間近な栗のいががかなり飛ばされて、副市長にも来て見て頂いた。8、9 割のいがが飛んでしまい大変ショックを受けていたところ、恵那市職員のボランティアで栗のいがの後片付けをして頂いた。本当に感謝している。遅くまで身を粉にして働いて頂いた。私たちもくじけていたが本当に勇気もらい、もっと頑張らないといけないという思いをした。今後とも私たちも日本一の栗園を目指して頑張っているのでもよろしくお願いします。

当面の課題は選果場、選果機の導入。手作業ではこなしきれなくなってきた。それが一つの課題で、お願いだ。お願いがもう一つ、観光栗園を手掛けているが、私たちの目的が 3 つあり、その 1 つが農村と都市の交流の拠点としてグリーンピア跡地の栗園活用。お客さんをお呼びには満足して帰って頂くことが一番必要なことだが、トイレと水の問題がある。仮設トイレと山水を引いて対処しているが、トイレはまた来年も来ようと思うためには絶対必要なものだ。一考して頂きたい。モータースポーツの誘致も考えてみえるようなので、そうした活性化に向けてのこととしてぜひお願いしたい。私たちも努力する。

■市長 人が集まり、そこで少し時間を使って頂く、お金を使って頂くとなれば、トイレ、水の話も環境としては整えないといけないと思っている。要望は出来れば、中野方全体の協議会や地域自治区でご議論頂き、そこからご要望頂くのが一番良いと思う。なるべく実現したい。

■市民 3 観光栗園やラリーの話が出ているが、壮健クラブの友愛事業の一環として、旧グリーンピア一帯の道路 3,300m を 6 月と 9 月に 100 名ぐらいで草刈りをしている。今回は特に観光栗園とラリーがあるということで車道を中心に草刈りをした。側溝が詰まり道路に土が出たり、歩道に木の枝がかぶさってきて、今の状態では壮健クラブには荷が重い。市で道路整備の対策を考えているか。

■市長 壮健クラブの皆様にはご尽力頂きありがとうございます。草刈りをして頂いているとは気づいていなかった。失礼しました。感謝する。荷が重いというのもよく分かるので、持ち帰り検討する。ラリーの件は壮健クラブの皆様にも色々とお願ひしていることは聞いている。それも含め、担当から連絡する。どういうことが出来るか検討する。

■市民 4 中野方小学校の体育館の地盤がどうなのか心配だ。以前草刈り等をしているとき、体育館の周りは土で盛られているが、北側で、長さ 700 mm ぐらい、幅 50 mm ぐらいの亀裂があり、奥がどこまで掘れているか分からない状態だった。今改修されているのかよく分からないが体育館は小学校より一段高いところにあり、地域の避難所にも指定されて

いるので、地盤が大丈夫なのか市で調査して頂き、何かあれば補修してほしい。

エアコンの設置。暑い日が続き、愛知県では小学校1年生の子が授業中に亡くなった。恵那市は早い段階で市全部の小中学校にエアコン設置を進めて頂いて、来年から設置して頂けるので有り難い。特別教室の予算が取れてないと聞いている。出来ればそちらも予算立てして頂き設置してほしい。ただ、かなりの数になると思うので、音楽室、理科室などよく使用される教室を中心に設置してほしい。

■市長 体育館の地面が割れている件は教育委員会に調査させて見せて頂く。エアコンは、先ほど小中学校と言ったがこども園も含めて行く。中野方がどうだったか記憶がないが、新しいこども園にはエアコンが入っている。順番としては小さい子どものところから行く。こども園、小学校、中学校の順になる。音楽室と理科室は計画に入れている。設計費4200万円の中でどのぐらいの規模でどういう工程ということも考えているのでまた伝える。

■市民5 岩村が「半分、青い。」ですごいことになった。あと明智も相当な話題になるだろう。そう考えると、恵南に観光のプロモーションの重心が行っている。笠周地域はアピールの度合いがちょっとかすんでいる。今度WRCのラリーも来るし、ボートの練習場でも頑張っているが、そのとき紹介のビデオを作って頂き、低予算なのに素晴らしいものだった。ネットでの反響も非常に良い。笠置のボルダリングに1万人も来ており、今後も増えていこうから、それを見て、さらに上がって日本一の栗園を見て、それから少し下がりながらヒルクライムのコース、それから棚田に向かって上がって、棚田から伊勢湾を望むというビデオをぜひ低予算で作ってほしい。せっかく作ったあのビデオを有効活用しないともったいない。それならそこまで延ばした方が良い。

WRCは、先ほど栗園のトイレの話があった。L1で岩村に昨年8千人ということだ。岩村町には8千人のキャパがある。WRCなら8千人は多分超えて2万人、3万人、4万人、5万人以上ということになるだろう。道路事情も岩村のように良くなく、恵那七宗線しかない。そこに1万人が来たらどうなるのか。来訪者に対する整備の仕方も、今から計画をしていかないと、来年に間に合わない。住民が普通に暮らすことが出来ないと困る。トイレ、ごみの問題もある。今から計画してほしい。

■市長 ボート・カヌーのプロモーションビデオは僕も見た。素晴らしいものだ。多くの皆さんに見て頂きたい。それを広げて中野方、笠周地域全体の観光ビデオは検討してほしい。

WRCは、おそらく来るとは思うが正式発表がないので動きようがない。決まり次第、市としてもフルに応援態勢でバックアップするし、走られる地域の皆様とは協議を重ね、人をどうさばるか、ごみやトイレの問題、どう消費につなぐかといったことを考えたい。

決まったら地域の皆様の協力をお願いします。

■市民6 救急車の配置について、本当にありがとうございました。坂折棚田は色々な事業に取り組み、都市部の人と振興を図りたい。お客さんを中野方に呼ぼうということで色々やっている。そんな中で、坂折棚田については、お客さんに来てもらってはいるが、NPOになって事務量がハードルになってきた。それから、今はまちづくり推進員に1日だけ来て頂きやっているが、残りはボランティアに頼っている。それと、中野方では農泊推進協議会を立ち上げて3軒がすでに認可された。ぼちぼちお客さんにも来て頂いているし予約ももらっている。そういう中で、29年度と30年度は農水省の事業の中で人材費があって、貼り付けて頂き、その人にホームページの改正や色々なことをやって頂いているが、それも30年度で終わりだ。これから農泊が、どんどんお客さんが増える中で、まとめる窓口の人がほしい。まちづくり推進員が30年度で終わりだそうだ。そういう人たちを私どもは頼らざるを得ない。何とか30年度以降もそういう人を貼り付けて頂きたい。私の考えとしては、棚田と農泊推進協議会、農泊推進協議会は笠岡地域なので、そうしたことでそこに1人貼り付けて頂ければ、今までのこともこれからのこともどんどんスムーズに行くと思っている。中野方としては自分たちで出来ることは自分たちでしようという意欲はあるが、出来ないことは行政に頼らざるを得ない。

■市長 棚田、農泊について、地元で自主的に取り組まれているということに改めて敬意を表したい。そういった中で、人手がなかなか大変だということはよく分かる。この場で私が良いですと言うと問題になるので一度持ち帰りちょっと検討することにする。時間を置いてまた回答する。

■司会 前向きな検討をお願いしたい。切なる願いだ。

■市民7 確認と応援。一つは、恵那市は全く良いところだ。近年台風が頻繁にきているが、恵那市では台風もそっぽを向いていくので非常に良いところだと思う。が、ないないづくしで良いが、もし被災した場合のがれきの撤去をどうしたら良いか。もし住宅が壊れたとき、撤去の方法、費用はどうなるか。

もう一つ。働く場。本店をこっちに引っ張ってくるなどの話があった。ぜひそれは進めてもらい、市だけで人数が足りなければ副市長を本部長にして一般市民から奇抜な意見をどんどん上げるような特別Aチームを作ってもらって、ぜひ成功させてほしい。

■副市長 今年、津保川、長良川を関市は警戒していた。しかし違う方である板取川が氾濫して大分被害が出た。死者も出てしまった。その状況を市の職員に見に行かせた。まず、災害があった場合にどうしているか。学校の敷地を開放して、そこへがれきを一旦集める。こういった場合は、ほとんど国が激甚災害の指定をすぐにする。その前に、市としてはど

うしても撤去しなければいけないので、市が前もって撤去にかかる。後から激甚災害の指定になり費用が国から出てくる。そういう大きな被害の場合は公の費用で撤去する。

■市長 本社機能の誘致。これは古屋代議員、県議も含め、一生懸命行おうとしている。北陸新幹線開通のときは、東京から北陸新幹線沿いに本社が動いたということがある。東京から小松市に本社が戻ったら、社員の出産の子どもが増え、ストレスのない田舎で生活することで全体に生活の質が上がると言われている。それをぜひ実現したい。チャンスはリニアの開通だと言われている。東京に日帰りで十分行ってこられる。それを見据え本社機能の移転を進めたい。先ほど激励を頂いたので特別Aチームを作って行おうと思う。

■市民8 確認したい。恵那市の少子化対策がどのような状況か。あと、隣町の白川町は外から入ってくる世帯、特に子どもがいる世帯に非常に手厚い助成をしている。医療費、保育料が無料だ。特に中野方は子どもの数が大変少なくなっているのだから深刻な問題になっている。対策をお願いしたい。

■市長 手持ちに資料がないので細かく話せないが。移住、定住、家を建てた場合、出産祝い、結婚して恵那に移った場合はすべて補助金がある。全体の予算規模で1億円前後を移住定住、新築で用意している。恵那市としてはかなり思い切った移住定住、子育てのための支援施策は打っているつもりだ。まだ足りないのかもしれない。毎年制度を見直している。引き続き、他市の話があれば反映していきたい。ただ、効果のあることを行いたい。

6. 市長お礼のあいさつ

■市長 平日夜間のお忙しいときにありがとうございました。たくさん意見を頂いた。担当部署に指示を出しすぐに何らかの回答、また改めて確認させて頂く。今日の懇談会で言えなかったことは私でも地元の柘植議員、振興事務所長に伝えてほしい。今後の施策に反映したい。

■地域協議会副会長 皆様ありがとうございました。これで終了する。

[閉 会]